７月号　営農インフォメーション

水稲・大豆・の管理ポイント
水稲・・・生育量や葉色に合わせて穂肥を施用しましょう。
病害虫の発生に注意しましょう

大豆・・・中耕・培土は開花期までに実施しましょう。

水稲

① 穂肥

７月に入ると稲の生育ステージは、体をつくる「栄養生長期」から穂や籾をつくる「生殖生長期」に移ります。穂肥の施用は、穂数を確保し分化した籾や枝梗の退化を防ぎ、１穂中の粒数を確保するための重要な作業です。

穂肥は、穂となる幼穂長を確認して施用しますが、適期に必要量を確実に施用することが大切なポイントです。

※基肥一発肥料を施用している場合は基本的に穂肥を施用する必要はありませんが、幼穂形成期の葉色が低下した圃場では施用が必要になる場合もあります。6 月 23 日から順次夏季現地研修会を開催し営農指導員が集落を巡回しています。

※施用量が多かったり、施用時期が遅れると、未熟粒の増加や食味の低下につながります。

●幼穂の確認方法

●穂肥の施用と時期の目安

JA 東びわこ米基準【化成肥料】

品種	商品名	出穂25日前	出穂18日前	出穂10日前
コシヒカリ	穂肥まかせな彩	-	22kg	
	化成肥料20-0-10	-	13kg	13kg
滋賀羽二重糯	穂肥まかせな彩	-	20kg	
	化成肥料20-0-10	-	10kg	10kg
キヌヒカリ 日本晴 秋の詩	穂肥まかせな彩	25kg	-	-
	化成肥料20-0-10	13kg	13kg	-

環境こだわり米基準【有機肥料】

品種	商品名	出穂25日前	出穂18日前	出穂10日前
コシヒカリ	ハーフゆうき	-	20kg	20kg
	滋賀こだわり穂肥ハーフコート306	-	30kg	-

施用時期の目安

【5 月 1 日田植え】

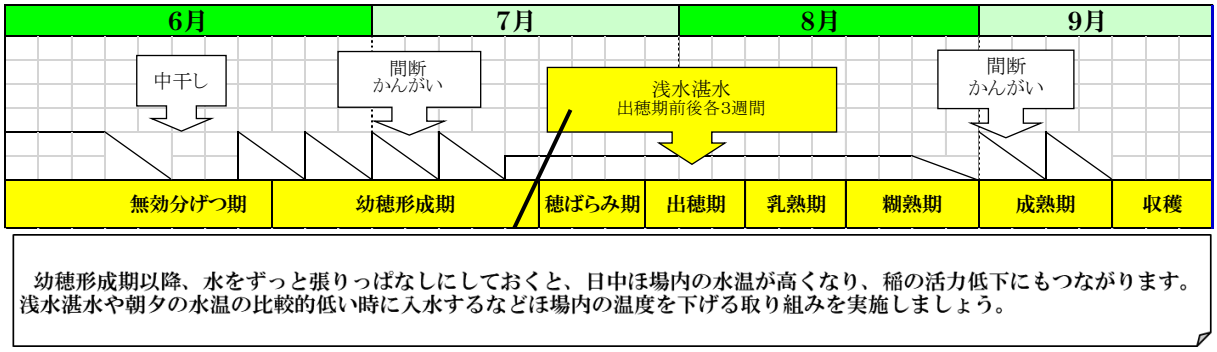
	コシヒカリ	キヌヒカリ	日本晴	秋の詩
出穂期予測	7月26日	7月27日	8月8日	8月11日
出穂25日前 （幼穂長1～2㎜）	7月1日	7月2日	7月15日	7月18日
出穂18日前 （幼穂長5～10㎜）	7月8日	7月9日	7月22日	7月25日
出穂10日前	7月16日	7月17日	7月30日	8月2日

【5 月 15 日田植え】

出穂期予測	7月29日	7月30日	8月11日	8月14日
出穂25日前 （幼穂長1～2㎜）	7月4日	7月5日	7月17日	7月20日
出穂18日前 （幼穂長5～10㎜）	7月11日	7月12日	7月24日	7月27日
出穂10日前	7月19日	7月20日	8月1日	8月4日

② 今後の水管理について

これからの水管理は稲作にとって大変重要な作業となります。出穂前後 3 週間は常時湛水が基本となります。稲が最も水を必要とする穂ばらみ期から出穂期にかけてはたっぷりと水を与え、出穂後 3 週間は胴割粒や白未熟粒発生防止のため水不足にならないようにしましょう。



幼穂形成期以降、水をずっと張りっぱなしにしておくと、日中ほ場内の水温が高くなり、稲の活力低下にもつながります。浅水湛水や朝夕の水温の比較的低い時に入水するなどほ場内の温度を下げる取り組みを実施しましょう。

③ 後期除草剤について

ノビエやホタルイなどを枯らすために除草剤を購入されると思いますが、収穫前日数を確認してください。ノビエに効くクリンチャー１キロ粒剤は収穫の 30 日前までです。イネ科を除く一年生雑草に効くバサグラン粒剤は収穫の 60 日前までとなります。早生品種の場合は収穫時期が 8 月下旬頃となります。どの品種のほ場に使用するか購入前に確認しましょう。

【ノビエ】

【ホタルイ】

【コナギ】

【アゼナ】

【クサネム】

【クログワイ】

商品名	バサグラン粒剤	バサグラン液剤	ワイドパワー粒剤	クリンチャー1ｷﾛ粒剤	
成分数	1	1	2	1	
使用量	3～4kg/10a	薬量500～700㎖/10a	3kg/10a	1kg/10a	1.5kg/10a
対象雑草	ｳﾘｶﾜ・ｵﾓﾀﾞｶ・ﾎﾀﾙｲ・ﾏﾂﾊﾞｲ・ﾐｽﾞｶﾞﾔﾂﾘ・ｸﾛｸﾞﾜｲ・ｴｿﾞﾉｻﾔﾔﾇｶｸﾞｻ・ｼｽﾞｲ・水田一年生雑草（イネ科を除く）	ｳﾘｶﾜ・ｵﾓﾀﾞｶ・ﾎﾀﾙｲ・ﾏﾂﾊﾞｲ・ﾐｽﾞｶﾞﾔﾂﾘ・ｸﾛｸﾞﾜｲ・ｴｿﾞﾉｻﾔﾔﾇｶｸﾞｻ・ｼｽﾞｲ・ﾍﾗｵﾓﾀﾞｶ・一年生雑草（イネ科を除く）	ｳﾘｶﾜ・ｵﾓﾀﾞｶ・ﾎﾀﾙｲ・ﾏﾂﾊﾞｲ・ﾐｽﾞｶﾞﾔﾂﾘ・ｸﾛｸﾞﾜｲ・ﾋﾙﾑｼﾛ・水田一年生雑草	ﾉﾋﾞｴ・ｷｼｭｳｽﾞﾒﾉﾋｴ・ｱｾﾞｶﾞﾔ	ﾉﾋﾞｴ・ｷｼｭｳｽﾞﾒﾉﾋｴ・ｱｾﾞｶﾞﾔ
使用時期	移植後15～55日 但し、収穫60日前まで	移植後15～55日 但し、収穫50日前まで	移植後20日～ﾉﾋﾞｴ5葉期 但し、収穫60日前まで	移植後7日～ﾉﾋﾞｴ4葉期 但し、収穫30日前まで	移植後25～ﾉﾋﾞｴ5葉期 但し、収穫30日前まで
使用方法	落水散布又はごく浅く湛水して散布	落水散布又はごく浅く湛水して散布	落水散布又はごく浅く湛水して散布	湛水散布	湛水散布

商品名	クリンチャーバスME液剤	サンパンチ1ｷﾛ粒剤	アトリ1ｷﾛ粒剤
成分数	2	4	1
使用量	薬量1000㎖/10aを70～100ℓ/10aに希釈	1kg/10a	1kg/10a
対象雑草	一年生雑草・ｳﾘｶﾜ・ｵﾓﾀﾞｶ・ﾎﾀﾙｲ・ﾏﾂﾊﾞｲ・ﾐｽﾞｶﾞﾔﾂﾘ・ﾍﾗｵﾓﾀﾞｶ・ｾﾘ・ｸﾛｸﾞﾜｲ・ｷｼｭｳｽﾞﾒﾉﾋｴ・ｼｽﾞｲ	一年生雑草・多年生広葉雑草・ｷｼｭｳｽﾞﾒﾉﾋｴ・ｱｵﾐﾄﾞﾛ、藻類による表層はく離	ﾉﾋﾞｴ・多年生広葉雑草
使用時期	移植後15日～ﾉﾋﾞｴ5葉期 但し、収穫50日前まで	移植後15日～ﾉﾋﾞｴ3.5葉期 但し、収穫60日前まで	移植後14日（稲5葉期以降）～ﾉﾋﾞｴ4葉期 但し、収穫45日前まで
使用方法	落水散布又はごく浅く湛水して散布	湛水散布	湛水散布

※注意！！
後期除草剤について<u>早生品種の場合、使用時期が迫っております。</u>
収穫予定日を考慮し使用時期の遵守をお願いいたします。

④ 病害虫について

●いもち病

近年箱施用剤の普及によりいもち病の大量発生は見られない状況にありますが、ジメジメとした湿気が多い気象が続くと発生が懸念されますので注意しましょう。また、窒素過多や軟弱苗、日陰等風通しの悪い場所でも発生しやすくなるため注意しましょう。

薬剤名	散布量	使用時期	使用回数
コラトップ粒剤5	3～4kg/10a	葉いもち：初発10日前～初発時 穂いもち：出穂30日前～5日前	2回以内

発生後 2～3 日後の葉いもち→

●紋枯病

いもち病と同様にジメジメとした湿気が多く窒素過多圃場で発生が懸念されます。紋枯病は６月上旬頃に稲の株元に付着感染し、その後梅雨明け頃に茎の上部にと病斑が発生します。

※紋枯病は菌核となって越冬し、翌年の発生源となります。発生の見られた圃場では翌年は箱施用剤等の使用を検討しましょう。

薬剤名	散布量	使用時期	使用回数
リンバー粒剤	3～4kg/10a	収穫30日前まで	2回以内

紋枯病発生株

●ニカメイチュウ

ニカメイチュウは年２回発生し、1回目が６月中下旬頃、2回目が８月上旬頃と言われています。また幼虫が茎内に侵入し食害することにより、白穂や不稔穂の原因になります。発生が気になる場合には１回目の６月中下旬にしっかりと防除しましょう。

※パダン粒剤４は劇物指定農薬なので配達できません。また購入の際には JA 窓口にて署名と捺印が必要となります。

薬剤名	散布量	使用時期	使用回数
パダン粒剤4	3～4kg/10a	収穫30日前まで	6回以内

※ニカメイチュウ幼虫

※ニカメイチュウ成虫

●斑点米カメムシ類

若い籾がカメムシ類に吸汁加害されると斑点米になります。斑点米が生じた玄米は検査等級が著しく下がります。畦畔等の草刈りと薬剤防除を組み合わせ、より防除効果を高めましょう。またヒエの多い圃場は必ず抜き取り、斑点米発生のリスクを軽減しましょう。

※斑点米を発生させるカメムシ類

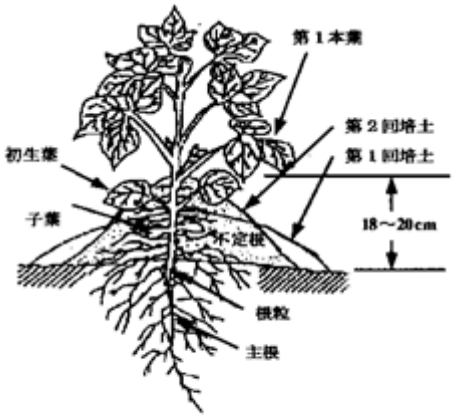
薬剤名	使用方法	希釈倍率	散布量･使用液量	使用時期	使用回数
スタークル粒剤	散布	ー	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内
スタークル液剤10	散布	300倍	25ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内
	無人航空機による散布	8倍	0.8ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内

大豆

〇中耕・培土
中耕・培土は大豆の安定多収栽培には、欠かすことのできない基本技術です。
【効果】
雑草防除・倒伏軽減・排水性の向上・養分吸収の向上・根粒菌の増殖など

●１回目は、本葉２～３葉期頃に子葉が隠れる程度に行いましょう。
●２回目は本葉４葉期頃に初生葉が隠れる程度の高さ（１８～２０cm）まで行いましょう。作業適期が遅れると根を傷めるので、開花１週間前までには終わらせましょう。

〇本田雑草生育期の除草
中耕培土後に雑草が多発した場合は、ポルトフロアブルや大豆バサグラン液剤・アタックショット乳剤を使用しましょう。使用前には、使用時期や散布量、注意事項をよく確認してから使用しましょう。
※ポルトフロアブルはイネ科雑草に高い効果があります。使用時は周辺の水稲に注意しましょう。
※大豆バサグラン液剤はイネ科雑草には効果がありません。
※アタックショット乳剤はイネ科雑草に効果が期待できないのでイネ科雑草対象の土壌処理剤又は茎葉処理剤と体系処理を行ってください。



大豆の中耕・培土